

平成 30 年度九州大学大学院法学府  
修士課程入学試験問題（秋季）

刑 法

以下の問題④から問題⑩までの 4 問のうち、3 問について解答しなさい。なお、どの問題について解答したのか、きちんと記号を解答用紙に明記すること（明記の無い場合には大幅な減点となる）。

問題④

過剰防衛における、いわゆる「質的過剰」の場合と「量的過剰」の場合について、具体的事例を挙げつつそれぞれの内容を説明したうえで、それぞれについてどのように考えるべきか、説明しなさい。

問題⑤

以下の(1)および(2)に解答しなさい。

(1)私立病院の院長 Y は、自分の教え子である国立病院の医師 C が Y の父親の主治医であったので、C に父親の死亡診断書に虚偽の事項を記載してほしいと頼んだ。C は、Y の依頼に応じて、死亡診断書に虚偽の記載をした。Y の罪責について論ぜよ。

(2)医師ではない一般人 X は、X の父親の主治医であった国立病院の医師 C に、父親の死亡診断書に虚偽の事項を記載してほしいと頼んだ。C は、X の依頼に応じて、死亡診断書に虚偽の記載をした。X の罪責について論ぜよ。

問題⑥

公務執行妨害罪（95 条 1 項）における「公務」と、業務妨害罪（233 条、234 条）における「業務」とは、どのような関係にあるものと考えられるべきか？刑法上予定されている行為態様の差異や犯罪の成立範囲について考慮しつつ、理由も挙げて説明せよ。

問題⑩

X はコンビニで窃盗行為をして、たまたまそこに居合わせた警察官に現認され、あわてて財物を持ち出したものの、その警察官に追尾されることになった。その逃走中に、X は友人である Y と偶然出会った。そこで X は Y に事情を話して、X Y 両名は意思を通じ合わせて追尾してきた警察官に対して暴行を加えた。X、Y それぞれの罪責について論ぜよ。

以 上